

「戦争ポスター」で戦時生活にタイムスリップ！

茨城県北相馬郡利根町立利根中学校 中澤 則明

1. 実施学年：小学校第6学年 教科・領域：総合的な学習＋社会科＋学校行事

(茨城県北相馬郡利根町立文小学校での実践理由)

※ 2013年度は、学級担任ではなく、若手教員研修の指導教員として勤務している。そこで、指導している学校のうちのひとつ、利根町立文小学校の第6学年（全27名）に対し本実践を行った。実践には、チームティーチングの教師やゲストティーチャーとして関わった。

2. 学習のねらいと歴史資料の活用との関連について

(1) 主題名：「戦争ポスター」で戦時生活にタイムスリップ！

(2) ねらい：戦争ポスターを見て、戦争ポスターから感じることや疑問に思うことなどを整理する活動の中軸として、当時の暮らしや世の中の様子に関心をもつと共に、太平洋戦争や戦時中の暮らしへの実感をもつことにつなげる。

(3) 博物館との関連

活用した資料：戦争ポスター（国立歴史民俗博物館貸し出し教材）

国立歴史民俗博物館ホームページ

3. 指導計画（6時間扱い）＋（学校行事5時間）

過程	時間	○学習活動 ●学習内容	□指導上の留意点 ■評価の観点
導入	1	○国立歴史民俗博物館の戦争ポスターを見てみよう。（発見） ●戦争ポスターの文字を読んでみる。 ●文字の意味調べとポスターの目的調べの班に分かれて細かく観察する。	□自由に見て、気付いたことを話し合わせる。 ■戦争ポスターの文字について理解できる。 <観察：知>
6年生の教室前に、「戦争ポスター常設展示」のコーナーを設けて児童が常時見られるようにしておく。			
展開1	1	○戦争ポスターを見て気付いたことを話してみよう。（発表） ●戦争ポスターを見て気付いたことを中心に話し合う。 ●グループ内でペア毎に、発見したことを発表する。	□直接関係のないことでも、必ず取り上げて価値付けをする。 □グループ内で分担しできる限り全員で多くの内容に関わるようにする。 ■自分の考えを基にして、話している。 <発表：観察：思>

	1	<p>○ゲストティーチャー（筆者）による戦争ポスターについての説明を聞く。</p> <p>●多くの児童が関心を寄せた戦争ポスターの何枚かについて説明する。</p>	<p>□資料集やプリント資料などで各自が捉えた内容を整理させる。</p> <p>■捉えた内容に沿って、まとめている。 <ワークシート：知></p>
展開2	1	<p>○戦時中の小学校の様子や子どもの生活を知ろう。</p> <p>●ゲストティーチャー（収録VTR）の戦時中の生の体験談を視聴する。</p> <p>●戦時中の戦争がすべてのような生活について考える。</p>	<p>□講話VTRの内容を整理（再編集）し、視聴のポイントも絞っておく。</p> <p>□国民学校のことや学校内に工場があったこと、毎日のように芋畑を耕したことなどについてもまとめさせる。</p> <p>■戦時中の生活という視点にたって考え、まとめることができたか。 <ワークシート：技></p>
展開3	1	<p>○戦時中の食べ物について調べよう。（模擬体験）</p> <p>●ゲストティーチャー（栄養教諭）から戦時中の食べ物（すいとん、大根飯、卵の花、白オムレツ、水味噌汁など）についての説明を聴く。</p> <p>●すいとんを試食してみる。</p>	<p>□戦時中の食べ物は、どうだったのかを考えてまとめさせる。</p> <p>□食事の楽しさや栄養という視点で話し合わせる。</p> <p>■戦時中の食べ物を試食させ、当時の生活を理解させる。</p> <p><ワークシート・観察：関></p>
まとめ	1	<p>○戦時中の小学生のくらしをイメージして、自分で考えついたことをもとに関係のあるクイズをつくってみよう。</p> <p>●戦争ポスターの中味と関連付けて、クイズを作成する。</p>	<p>□関心を持った内容を中心に調べながら、戦争ポスターの中に解答を見い出せるようにクイズの問題をつくらせる。</p> <p>□ペアになって、相互に問題を出し合って、楽しめるようにする。</p> <p>■戦争ポスターに関わりのある問題を、つくることができたか。 <ワークシート：技></p>
発展	(5)	<p>○国立歴史民俗博物館の見学をしよう。（発展）</p>	<p>□見学時は、第6展示室を中心に指導・助言を進める。</p> <p>□戦時生活も含めて、内容を整理させる。</p> <p>■友達と協力して楽しく見学し、意欲を高めることができる。</p> <p><ワークシート・観察：関></p>

4. 実践の概要

○国立歴史民俗博物館の戦争ポスターを見てみよう。
(発見)

- ・戦争ポスターの文字（言葉）を読んでみる。
- ・文字（言葉）の意味調べをしてみる。（ペアで）
- ・ポスターの目的は何かを調べてみる。（ペアで）



グループで戦争ポスター調べ

◆文字が、右から左へ書かれている戦争ポスターの多い中、「少年産業戦士募集」が見慣れた書き方であることに気がつくど、それを糸口に「日立」や「水戸工場」等の発言があり、日立製作所のことを調べる児童もいた。

◆多くの児童が、戦争ポスターのほとんどは戦争へのやる気を出させるためにつくられたと捉えていた。

◆戦争ポスターを見たことで、成人前の年齢でも自分から希望して兵士として戦争に行ったことを、初めて知った児童が数多くみられた。

○戦争ポスターを見て気付いたことを話してみよう。（発表）

- ・戦争ポスターを見ながら、話し合う。
- ・発見の中から、知らせたいことを発表する。
- ・新事実については、ノート等書きとめる。

◆戦争ポスターから得られた情報をもとに発表する。教師主導で個々に発表させた。

◆軍のいくつもの部門が、別々に募集や呼びかけをしていることや少年でも戦争にかり出されていた事実などを捉えられた児童もいた。



戦争ポスターから考える

◆戦争ポスターを見ながら、戦争の辛さというものを感じ、戦争の本当の姿をもっと知りたいという意見が多かった。

○ゲストティーチャー（筆者）から、戦争ポスターについての説明を聞いてみよう。

- ・「少年産業戦士募集」や「陸軍少年飛行兵」など5枚の戦争ポスターについて説明する。
- ・若干の質疑応答を行う。

◆「少年産業戦士募集」「陸軍少年飛行兵」「陸軍少年戦車兵・通信兵・砲兵 生徒募集」「節米一割」「厨芥を生かせ」について説明した。

児童たちの関心を中心に、総力戦のことと生命の危機を軸として、できる限り当時の様子が伝わるように話した。



戦争ポスターの解説

◆「少年なら、兵隊になったほうがたくさん食べられそうだけど、本当なのか？」という質問も出てきた。



戦争ポスターの常設展示風景

「戦争ポスター」レポートより

- ・飛行機から爆弾が落ちてくることを想定して、防空訓練が必要なことを呼びかけていることが、誰でも分かるような絵になっていることがスゴイ！<Y.I>
- ・女の人は、戦いには出ないで、いろんな手伝いをするみたいなのですが、戦争ポスターを何枚も見ると、そんな感じがする。<S.K>

○ゲストティーチャーの収録VTRから、戦時中の小学校の様子や子どもの生活を知ろう。

- ・戦時中の生の体験談を視聴する。
- ・戦時中の小学生の生活について考える。
 - ◆ゲストティーチャーのVTRを視聴し、かなりの児童が戦争の勢いが無くなっていった経過を捉えていたようであった。
 - ◆戦争ポスターで呼びかけている内容とは裏腹に、子どもでさえ安全な居場所がないぐらい切迫した状況であったことが理解できたようであった。
 - ◆戦争ポスターで捉えた「防空」や「防空訓練」そして「B29」というような言葉が、VTR中でも語られたことは、事実認識をより深めることに繋がった。



ゲストティーチャーの話を視聴

「戦争体験VTR」視聴より

- ・おじいさんの言う通りで、B29やせんとうきが攻めきしてくるのに、いくら竹やりで練習してもだめだっぺよ～。<T.M>
- ・校舎の中で、子どもにてっぽうのタマなんか作らっせっから、B29にやられんだよ～。<A.K>

○戦時中の食べ物について調べよう。（模擬体験を含む）

- ・ゲストティーチャー（栄養教諭）から戦時中の食べ物（すいとん、大根飯、卵の花、白オムレツ、水味噌汁など）についての説明を聞く。



栄養教諭から戦時中の食事の話聞く

- ◆児童にとって、戦時中の食べ物は、かなりの驚きだった。現在では、食材にしないものや捨てるもので調理することについて、一様に味に関する感想があげられた。

美味しくないと食べることへの嫌悪感が大きくなった様子がみられた。

- ◆ゲストティーチャーによる説明は、平素実施している栄養指導の流れを崩さないかたちで、現在の給食に出る汁物と戦時中のすいとんとのちがいに視点をあてて行われた。ほとんどの児童が、栄養上の偏りに初めて気付いた様子があった。



すいとんづくりと試食



試食（ニンジンの皮だー）



試食（先生っ！少しでいいよ）



試食（何が入ってんの？）



試食（うっー まじいイ）

- ・すいとんを試食してみる。
 - ◆試食体験を終えて、ほぼ全員が「戦争の時代に生まれなくてよかった。」という感想を持った。
 - ◆特に、「厨芥を生かせ！」のポスターを調べた児童たちは、生ゴミのことまで戦争ポスターでうるさく言われたのに、ひどい食べ物で我慢させられるのは可哀そうという声があがった。
 - ◆すいとんについては、戦時中のレシピを調べ、できるだけ忠実に調理した。味付は塩のみ、芋がらや野菜を入れて、小麦やフスマをぬるま湯で練って鍋に落として作った。
 - ◆芋がらについて説明すると、食べ物であることを初めて知ったという児童が、27名中24名もいた。葱についても上の方の緑の部分は、普段食べないという児童が19名いた。

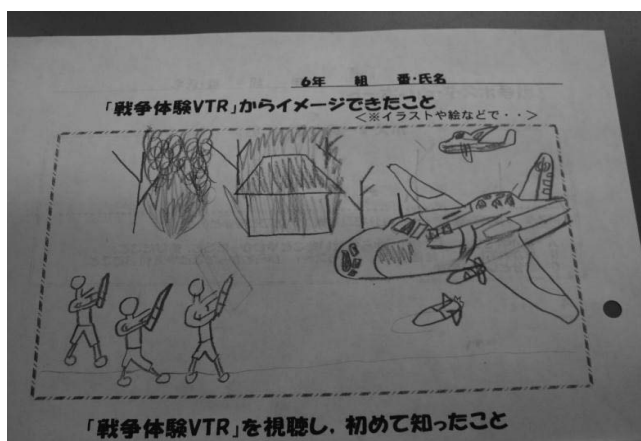
試食の感想より

- ・すごくマズイものを、食べていたんだなあと思った。＜M.O＞
- ・もう二度と食べたくない……。＜K.S＞
- ・イモの何んとかってヤツは、食べた感じがキモい。＜R.K＞
- ・何か、変に腹いっぱいになった。味がしょっぱいだけだった。＜I.T＞

○戦時中の小学生のくらしのイメージして、自分で考えついたことをもとに関係のあるクイズをつくってみよう。

- ・戦争ポスターの中味と関連付けて、クイズを作成する。
 - ◆「15歳で応募する兵には、どんな種類があるでしょう？」という問題は、戦争ポスターの「陸軍少年戦車兵・通信兵・砲兵 生徒募集」や「陸軍少年飛行兵」から考えられた。ゲストティーチャーの説明を聞いた5枚の戦争ポスターに関する問題の作成が多くなった。
 - ◆戦争ポスターの「全村をあげて松根赤だすき」について調べた児童たちが、金沢の兼六園にある“松の傷”に関する情報をネットで見つけてクイズにした。「松から取った油は、どのように使ったのでしょうか？」という問題であったが、回答後の反応としては、立派な名園の松まで傷つけてよいのだろうかというような意見が、大半を占めた。
 - ◆VTR 視聴からヒントを得たクイズとして、「小学生が畑でつくっていたものは、何でしょう？」というのも作成された。食糧不足という点で、ポスターとVTR と試食の三つが児童のイメージとして結びついて作成されたクイズと考えていいと思う。
 - ◆クイズ大会とまではいかなかったが、交代でクイズを出し合ったことにより、他の友だちが調べた戦争ポスターについても、少なからず知ることができた。

- ◆自分で描いたイラストを実物投影機で表示して、問いかけをした児童もいた。戦争ポスターの中に描かれた飛行機や兵器等が、体験 VTR の中で語られた空襲や防火訓練そして竹やりなどという内容と関連付けられ、ワークシートにイラストで表現することになった段階でイメージできたようである。



児童が描いたイラスト

○国立歴史民俗博物館の見学をしよう。（発展）

- ◆2013年11月29日に、文小学校の第6学年が歴史学習の総仕上げとして国立歴史民俗博物館を見学した。
- ◆見学内容の整理については、文小学校の第6学年の学級担任主導で進めたため、戦争の時代も含めた見学のまとめとなった。
- ◆グループ見学では2つの班しか見学できなかった第6展示室は、自由見学の時間帯になると多くのグループが展示室を訪れ、戦争ポスターを見つけて、友だちに知らせたりしながら、熱心に見ていた。また、兵舎の内部の展示を見た児童たちは、食事のサンプルにかなりの興味と関心を示して、兵隊と一般市民の食事の違いについて調べたいと発言する児童もいた。戦争をしていない時の兵隊の食事だと説明したが、それにしてもいいメニューだという感想が返ってきた。

5. 成果と課題

【成果】

- ・戦争ポスターを基軸とした今回の学習は、当初のねらい通りに戦時中の暮らしへの実感を持たせることに繋げることができた。
- ・戦争ポスターについてのゲストティーチャーの説明と収録VTRの戦争体験インタビュー、さらには、戦時食の説明からすいとんの試食に至る模擬体験によって、新たな気づきが生まれ、戦争の様子や戦時中の暮らしに対する児童たちの興味・関心が高まった。
- ・昨年制作した戦時中の体験談の収録VTRにより、地域の人材の教育力を少なからず活用できた。
- ・戦争の舞台となっていたところが、自分たちの知っている場所や現在住んでいる身近な地域であるという事実を知って、多くの児童がそれまでもっていた認識を変えることができた。
- ・栄養教諭による戦時食についての説明を経て、すいとんの試食体験をした児童たちは、戦争ポスターから感じる以上に当時の厳しい食べ物事情を考えることができた。

【課題】

- ・出向している文小学校の協力に支えられて授業を実施したが、戦争ポスターの読み

取り、戦時中の体験談の視聴、戦時中の食べ物体験という3つの展開に時間がかかり、クイズ作成の時間を短縮せざるを得なかった。時間配分に、無理があったことを痛感している。

- ・関係団体等との連携・協力を図るべく、ある程度の地域人材の確保や町の図書館や公民館とのタイアップを進めてきていた。しかし、他校での授業協力を得るかたちとなったため、地域の力を生かし切れなかった。

【博学連携の視点から】

- ・前年度から始めた本研究には、地域人材の活用という視点があり、連携・協力を約束してくれた諸団体も幾つか存在していた。しかしながら、本年度当初に連絡調整等のコーディネートを進められない事態が生じた。前年度に、地域の多くの人々から支援を得たことから考えると、今後においても戦争ポスターをきっかけとして、様々な地域資料の収集やそれらに係る人材活用等も期待できるのではないかと思う。
- ・学校運営の上で、児童の移動・引率の件や交通費の問題等により、少人数での博物館見学が難しいという公立学校の現状がある。そこで、博物館からの資料借用及び担当職員からの指導・支援により、児童たちは楽しく取り組むことができた。今後とも、博学連携研究が強力に推進されることを期待したい。

6. わたしの考える歴博活用例

実施学年	教科・領域	単元名	時間
第6学年	社会科・総合的な学習の時間	長く続いた戦争と人々の暮らし	10時間

(1) 学習のねらい及び小学校学習指導要領との関連

本学習のねらいは、小学校学習指導要領解説（社会編）の、歴史博物館や郷土資料館などの多様な施設を社会科の学習に積極的に活用することによって、「児童の知的好奇心を高め、学習への動機付けや学習の深化を図ることができる」を基に設定するものとする。これまでの実践では、戦争ポスターの読み取りやポスターの内容に関連付けた戦争体験者の講話やゲストティーチャーからの説明などにより、児童の学習への興味・関心を確実に高めるとともに、多様な学習活動を展開することができた。しかし、さらに、歴博活用による授業実践を進めるとすれば、考えられるのは、児童による歴博見学の充実である。目指すところは、課題別グループによる見学であり、歴博の研究者と児童との交流を伴うものになることが理想である。博物館内で実際に質問できたり、疑問点をメールや手紙で送ったりということができれば、歴博の戦争ポスターを基本資料として戦争観をつかむという点で、一步も二歩も踏み込んだ学習となるものと考えられる。

(2) 活用する歴博資料

①戦争ポスター（国立歴史民俗博物館貸し出し教材）

②第6展示室 「戦争と平和」のコーナー

復元模型やジオラマなどを活用し、当時の生活事情と戦争優先の凄まじさとともに、それに伴う犠牲の大きさについてもつかむ。

(3) 指導計画

計 10 時間

過程	時間	○学習活動 ●学習内容	□指導上の留意点 ■評価の観点
導入	1	○歴博戦争ポスターを見てみよう。 ●ポスターの目的を調べる。 ●ポスターを細かく観察する。	□自由に見て、話し合わせる。 ■ポスターへの関心が持てたか。 ＜観察：関＞
展開	2	○戦時中の小学校の様子や子どもの生活を知ろう。 ●戦争ポスターに描かれている生活用品や兵器等について調べる。 ●ゲストティーチャーからの説明も聞く。 ●収録VTRによる、戦時中の生の体験談を視聴する。	□各自が調べたり、視聴したりして捉えた内容を整理する。 □課題別グループを編成するとともに見学の内容及び目的を明確にする。 ■捉えた内容に沿って、まとめているか。＜ワークシート：知＞
	3	○歴博へ、見学に行こう。 ●疑問に思ったことを整理して、見学する。 ●戦争ポスターに関わる資料をしっかりと観察する。	□今までの疑問を解決できるものを探しながら、新発見も心がけるように促す。 □児童の認識の変化をつかんで、アドバイスをする。 ■疑問について、質問や観察等により解決できたか。 ＜ワークシート：思＞
	2	○歴博見学の内容をまとめて、分かったことを発表しよう。 ●観察から分かったこと、質問してはっきりしたことを発表する。	□できる限り全員で多くの内容に関わるようにする。 ■自分の考えを基にして、話しているか。＜観察：思・知＞
まとめ	2	○戦時生活クイズを作って、クイズ大会を開こう。 ●クイズを作成する。	□自分の興味や考えをもとに関係のあるクイズを作るよう促す。 ■戦争ポスターを元にして、クイズを作ることができたか。 ＜ワークシート：技＞